

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行します。

## 地域自立支援協議会地域移行部会が開催されました！

今年度、5回目の地域移行部会を1月13日に開催しました。区内外から37名の方に参加していただきました。ありがとうございました。

この部会は、毎回テーマを設け、障害者が安心して地域で住み続けるための基盤整備について検討しています。今回もフロア一体となって、積極的に意見交換をしました。



## 1月13日の主な内容

☆ 『身体と精神の重複障害者の地域移行、その後』

☆ 情報交換

東京都精神障害者退院促進支援事業

など

## 東京都精神障害者退院促進支援事業の進捗状況

サポートセンターきぬたとMOT Aが東京都事業を受託してもうすぐ3年目に入ります。広域化をキーワードに、受け入れ先の関係機関と連携を図るため継続したはたらきかけを行ってきています。

### 地域生活支援センターMOT A

#### 最近の活動状況 (これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて)

- グループホーム申し込みの支援を通じてご本人と支援者の言葉の感じ方が違うことを改めて実感した一場面がありました。支援者は、「手厚い支援があり、手助けしてくれますよ。」とお伝えしました。しかし、ご本人は、「手厚いとはおせっかいで、いろいろ干渉されるのではないか」と感じたようで、「手薄い方がいいです。」と返され、グループホームのスタッフとなるほどと笑いあいました。手厚いという言葉でもイメージするものが違い、より具体的に説明することが必要だなと思いました。(玉置氏より)
- 担当地域が広域化していますが、世田谷区で築いてきたネットワークを、他地域でも活かして、地元の支援センターに橋渡ししていきたいと思っています。(宮本氏より)

#### 病院ケースワーカーより

- 「ご本人の力を見出し、今ある力を発揮できるような関わりをしてれています」というコメントがありました。



### サポートセンターきぬた

#### 最近の活動状況 (これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて)

- グループホームを利用されていましたが、ご家族が海外から帰国し、急に有料老人ホームに入居が決まった方がいらっしゃいます。今後は、直接支援することは難しいですが、ご本人の様子をそっと見守っていきたくと思います。
- 区のケアマネージメント研修のつながりがあったので、支援がスムーズに進んだ事例がありました。いろいろなネットワークに支えられていると感じます。(金川氏より)

1月のテーマは、

## 「身体と精神の重複障害者の地域移行、その後…」 です。



### Aさん

は、区外の精神科病院に長く入院していました。  
車椅子を利用しており、身体と精神の重複障害がある方です。

ご本人は世田谷区のアパートで生活することを希望されていました。  
平成20年3月に、退院促進支援事業の対象となり、さまざまな支援者や関係機関の関わりにより、  
平成21年1月退院し、「なかまっち」へ入所しました。現在はアパートでひとり暮らしをしています。



### Aさんが、病院から 世田谷区へ退院するまで

(障害者支援情報センター HASIC 進藤氏より)

- 平成20年3月に退院促進事業の対象となり支援を開始しました。
- 入院先が遠方だったこともあり、概ね月1回ペースでご本人に会い、アパート探しなどに同行しました。ご本人と一緒に行動するときは車での移動が必要でした。
- 不動産屋を巡っても、希望に合う物件がなかなか見つかりませんでした。まずは、自立体験ホーム「なかまっち」を利用することにしました。
- 住所地問題(\*)があり、なかまっちを利用するのに思わぬ障壁がありましたが、関係機関と調整し、入所できることになりました。  
(\*障害者手帳の住所が病院住所となっていたため、当初は区民としての利用が認められなかった)



### Aさんの病院での様子

(入院先の病院 ケースワーカー東畑氏より)

- 入院中は、タクシーで外出し、買い物などへ行っていました。以前から一人暮らしを希望されており、世田谷へ戻りたいとおっしゃっていました。
- 当時の主治医は、アパートでの単身生活は難しいと考えていたようです。また、病院から世田谷まで支援することも難しいため、救護施設の利用などを提案していましたが、やはりご本人は世田谷での一人暮らしを希望されていました。
- 平成20年3月に退院促進支援事業の対象となりました。世田谷への退院が現実となり、期待と不安からか、進藤さんが病院に訪問に来る前日は奇声をあげることが増えていましたが、「なかまっち」に入所が決まってからは、ほとんど奇声はなくなっていました。
- 病院では、退院された後のご本人の様子を知る機会がなかったのですが、この部会に参加して、さまざまな関係者からの話が伺えてとてもよかったです。



### Aさんが「なかまっち」に入所してから、 アパート生活を始めるまで

(身体障害者自立体験ホーム「なかまっち」原氏・江澤氏より)

- 「なかまっち」は、地域生活支援拠点機能を担う区立施設です。自立に向けた体験の場を提供しています。  
(当日は、「なかまっち」のパンフレットを配布し、説明していただきました)
- 平成21年1月、「なかまっち」の利用がスタートしました。
- まずは、「なかまっち」での新しい生活に慣れることを目標に、電動車いすの練習、調理などに取り組みました。
- 生活が安定してきたところで、日中の活動場所を探したり、アパート探しをはじめました。
- そのような中、突然、心筋梗塞で倒れ、緊急入院、手術することになりましたが、無事退院し、アパートを見つけ、入居手続きなどを進めてきました。
- ご本人がアパートで生活しやすいよう、住宅改修の支援も行いました。  
(当日は、実際の改修の様子を写真で紹介していただきました)
- 最後に、「今までは枠組みを作っただけ。これからは本当の自立生活になるので今後も支援を継続していきたい」と話していただきました。

### ご質問やご意見



\*一部をご紹介します。

- Aさんは、自立支援の認定調査で「区分3」ということでしたが、支援スケジュールを組むのは大変ではなかったですか。
  - (なかまっち・原氏) Aさんは、身体介護、家事援助、移動支援サービスを利用しています。移動支援は、遠出の買い物などに利用しています。スタッフとしては、さらにサービスを増やしたいと思っていましたが、担当のケースワーカーは「区分3」であればもう少し減らしてもよいのではないかと意見でした。ご本人に、やりたいことを聞いてもなかなか出てこないのですが、ボソッと「温泉」と答えてくれたので、その思いに添って支援したいと思っています。
  - (HASIC・進藤氏) 障害の重さで見ると、精神障害でも軽く、身体障害でも軽い方と言えますが、重複障害の支援の大変さがありました。
  - (なかまっち・江澤氏) それぞれの障害は軽い方かもしれませんが、病院生活が長かったせいか、意欲の低下への対応や健康管理などが難しいと感じます。
- 精神疾患で入院していても、身体障害との重複障害があれば、身体面への対応も重要になります。「なかまっち」から見て、病院にどのような対応を望みますか。
  - (なかまっち・江澤氏) 身体障害による生活のしづらさは、工夫次第で改善できることが多いです。しかし、精神科病院には作業療法士が配置されていないことが多いので、アプローチが難しいのではないかと思います。
  - (入院先病院・東畑氏) 施設構造上の問題で、車椅子の方のご入院は難しくなっています。理学療法士などのリハビリ専門のスタッフが配置されていないので、看護師や作業療法士が個別で対応しています。
  - (なかまっち・原氏) 精神症状が落ち着くよう、薬のコントロールなどが大切だと考えます。
  - (なかまっち・江澤氏) 精神症状が安定してから身体面の問題を解決すると考えるより、身体面の自由度が広がると精神症状が改善することもあるので、同時並行で進められると良いと考えます。
  - (フロアから) 身体と精神の重複障害の方を担当しています。一度自宅に退院されましたが、家での転倒が重なり再入院となりました。再度退院することは難しいと考えていましたが、身体面へのアプローチなどを「なかまっち」に相談できると分かり、希望が見えました。

# ご質問・ご意見（つづき）



○精神科病院での、精神と身体の重複障害の方の入院状況を教えてください。

- （烏山病院）病院機能が急性期対応に転換してきており、長期入院患者の退院を進めるため、退院促進支援事業の対象者が増えています。高齢で車椅子利用している方も入院しているので、「なまかっち」の支援が勉強になりました。
- （長谷川病院）ADLが低下している方も入院しているので、身体的な支援も必要となっています。
- （松沢病院）慢性期病棟は半数以上の方が車椅子を利用しています。高齢によりADLが低下した方、年齢は若くても陰性症状により食事がとれず、筋力が低下した方などです。精神障害の偏見があり、症状は安定していても、病名で受け入れてくれないこともあります。
- （井之頭病院）長期に入院されており、身体障害もあると退院が難しいと感じます。また、高齢によるADL低下であれば介護保険の対象になりますが、30歳くらいで半身麻痺の方はサービスが限られてしまい、退院の話が何度も中断しています。ご本人も自信がなくなり、スタッフもモチベーションが下がっていましたが、「なまかっち」の話が勉強になりました。

## 世田谷区セーフティネット支援対策退院促進事業の進捗状況

障害者支援情報センター HASIC

### 最近の活動状況（これまで地域移行部会で報告してきた方の近況などについて）

- 数回外泊をしましたが、道順が覚えられない様子があるので、次回は長期外泊にチャレンジする予定です。
- 薬物依存で通院しながらNAを利用している方ですが、就職を機に連絡が取りづらくなり、関係者みんなで心配している方がいます。
- 平成18年、19年に支援した方は、退院促進支援事業は終了していますが、その後、近隣から連絡が入るなど、関係はなかなか終わらないと感じます。

### 情報提供

- 作業所見学ツアーは、（1月13日現在で）2月、3月分の空きがあります。4月以降も計画しています。
- 2月25日に世田谷区民対象の区内作業説明会開催します。（進藤氏）

### 来年度の予定

来年度も、地域移行部会を、隔月（奇数月）に開催する予定です。

来年度も引き続き、みなさまのご参加をお待ちしています。



### 編集・発行

世田谷保健所健康推進課  
精神保健担当



電話 03(5432)2442  
Fax 03(5432)3022